

かるた取り 縄文文化に親しむ 茅野で大会

茅野市縄文かるた大会（尖石縄文考古館主催）は24日、同市のめいわーく茅野で開いた。3人1組の団体戦と個人戦に延べ約40人が出場し、かるたを楽しみながら縄文時代に親しんだ。

コロナ禍を経て昨年5年ぶりに再開した大会で、今回は市民有志らが集った縄文プロジェクト実行市民会議「縄文」を識る部会が2016年に発行したかるたを使用。札は46枚あり、「あ」の読み札は安産を土偶にのこる縄文人「む根」など八ヶ岳山麓で育まれた縄文文化を題材にしている。

団体戦は4チームのトーナメント戦で行った。小学生未満、小学校低学年、同高学年、一般の計4部門に約30人が出場した個人戦は1チームが1試合ずつ実施した。参加

者は読み手の声に集中し、素早く取り札に手を伸ばしていた。団体戦は北山小学校6年の花岡椿妃さん、岡田絵里衣さん、篠原美和さんの同級生チームが優勝。3人は「うれしい」と声をそろえ、「緊張したが楽しくできた」などと笑顔を見せた。

同考古館の湯田坂幹雄館長は、年長者の小学生が年下の相手を気遣うなどかるたを通して互いを思いやる気持ちも感じられたとし、「かるたを通じて縄文について知ってもらえれば」と願った。（小尾口有二）



「茅野市縄文かるた大会」でかるたを取り合う参加者